

肥料&農薬技術情報

1. 今月の農作業
2. 果樹秋肥の施用について
3. 病害虫管理について
4. チョウ目害虫による被害にご注意を！
5. 稲刈取後の除草剤散布で翌年の雑草抑制を
6. 水稻収穫後の土づくりについて
7. 園芸作物の土づくり推進資材
8. 麦播種前の圃場準備について

1. 今月の農作業

《気象予報》

10月5日～11月4日までの天候見通し

四国地方	平均気温(1か月)	降水量(1か月)	日照時間(1か月)
各階級の確率	低:10% 並:10% 高:80%	少:20% 並:40% 多:40%	少:40% 並:40% 多:20%
平年比	高い見込み	平年並か多い見込み	平年並か少ない見込み

令和6年10月3日 高松地方气象台 発表

《水稻》

水管理・落水（普通期）

登熟期間は間断かん水により土壌を湿潤気味に管理してください。
落水時期が早いと玄米の粒厚が薄くなり、**品質・食味低下**を招くため、
収穫5～7日前の落水を基準とし、天候や水田の状況を見て判断してください。
また落水日までは水を張っておき、一気に落水しましょう。

収穫適期

本年の普通期水稻の出穂時期は昨年よりやや早く、登熟期間も高温で推移したため、成熟期は早くなると予想されます。

収穫にあたっては下表を参考にほ場観察を行い、適期収穫に努めましょう。

	ひめの凜	ヒノヒカリ	にこまる	松山三井
出穂後日数(日)	37～43	40～46	42～48	50～57
最長稈黄変率(%)	85	85	90	90
積算温度(℃)	900～1,000	900～1,050	1,000～1,150	1,050～1,200

※ひめの凜は刈遅れを防ぐため、黄変率 85%に達したら刈り始めましょう。

ヒノヒカリは、刈り遅れると茶米が混ざり品質が低下しやすいので注意してください。

乾燥

収穫した籾は長時間堆積したまま放置すると品質が低下するため、収穫後は速やかに乾燥を行いましょう。

食味低下を防ぐため、乾燥温度はできるだけ低温に設定し、乾減率は毎時 0.8%程度で行いましょう。

玄米の仕上がり水分は 14.5%を目標とし、過乾燥（14%以下）や高水分（15%以上）とならないよう注意してください。

次作の水田雑草防除

近年は除草剤だけに頼った雑草防除が増えており、除草剤が効きにくい難防除雑草が増加しています。

ノビエ等の一年生雑草は、放置すると多量の種子を作り、次年度の多発生につながるの、なるべく早い時期に抜き取りましょう。

ミズガヤツリ、クログワイ等の多年生雑草は、地下茎や塊茎で繁殖するため、水稻収穫後、非選択性茎葉処理剤のスポット散布や、反転耕で土中の塊茎を露出させ、乾燥と寒気で枯死させましょう。



写真1 ノビエ

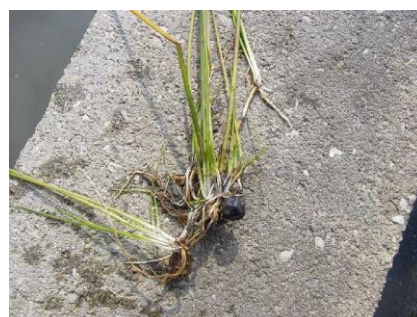


写真2 クログワイの塊茎

《大豆》

大豆は子実肥大期～成熟期となる。

この時期にほ場が長時間湛水すると、根痛みによる登熟不良を引き起こすほか、倒伏した莢が浸水すると腐敗粒増加の要因となるため、

収穫期まで明渠の補修や排水口との接続等により停滞水の排水に努めましょう。

《麦》

種子の準備

自家採種を続けると品種特性の劣化や混種、変種が起こるため、2～3年に1回は種子更新を行ってください。

また、種子伝染性病害（裸黒穂病、斑葉病など）を防除するため、

種子消毒は必ず行いましょう。

薬剤はベンレートTコート（乾燥種子重量の0.5%粉衣処理）などを用いる。



写真3 裸黒穂病

播種前のほ場の準備

麦の播種期の多雨は出芽不良や減収を招くため、湿害対策は万全に行いましょう。

水稻収穫後はできるだけ速やかに、額縁明渠（写真4）や弾丸暗渠（写真5）を施工し、ほ場の乾燥に努めましょう。

チゼルプラウ耕（写真6）を併用すると土壌が乾きやすくなり、播種時の碎土性が向上します。



写真4 額縁明渠の施工



写真5 弾丸暗渠の施工



写真6 チゼルプラウ耕

（農林水産研究所）

2. 果樹の秋肥の施用

秋肥の役割

果実生産で消耗した養分補給、樹勢回復、耐寒性向上、翌年の花芽分化促進

秋肥は果実によって樹体から取り除かれた養分を補給し栄養状態を回復させるためのものです。

耐寒性の向上や翌年の花芽の着生に役立ちます。そのために、吸収された養分が年内に枝や葉に転流しておくことが重要となります。地温が12℃を下回ると根の活力が低下し養分吸収が抑制されるため、早めの施肥が効果的となります。ただし、当年の果実の収穫時期との兼合いで、品種毎の施肥時期に留意することが重要です。

施肥時期と施肥量

種類	施肥時期	施肥量		
		N	P	K
ハウスミカン 6月～8月収穫園	収穫直後	12	8	9
	10月上旬	4	4	4
ハウスミカン 8月～9月収穫園	収穫直後	12	8	9
	10月下旬	6	4	5
極早生温州 (10月中旬までに大部分収穫することを前提)	10月上旬	8	6	6
	11月上旬	5	3	3
極早生温州マルチ栽培	収穫直後	11	8	9
早生温州マルチ栽培	10月下旬	11	7	7
早生温州マルチ栽培 《緩効性一発肥料を用いた場合》	11月上旬	22	15	17
早生温州マルチ栽培	収穫直後	11	7	8
普通温州みかん（マルチを含む）	11月上旬	10	6	7
普通温州みかん（マルチを含む） 《緩効性一発肥料を用いた場合》	11月上旬	22	15	17
早生伊予柑	8月下旬	7	6	6
	11月上旬	7	5	5
普通伊予柑	9月上旬	8	6	7
	11月上旬	7	4	5
甘夏柑	9月上旬	8	7	7
	11月上旬	6	4	5
八朔	9月上旬	8	6	8
	11月上旬	6	5	5
ネーブルオレンジ	9月上旬	8	5	7
	11月上旬	8	5	5

ポンカン	11 月上旬	7	5	6
清見	9 月上旬	8	7	7
	11 月上旬	8	6	7
甘平	9 月上旬	8	7	7
	11 月上旬	8	6	7
不知火	11 月上旬	8	6	6
愛媛果試第 28 号（紅まどんな）	11 月上旬	8	5	6
河内晩柑	10 月下旬	9	7	7
ゆず	9 月上旬	6	4	5
	10 月下旬	9	6	7

《マルドリ方式の場合》

種類	施肥時期	施肥量		
		N	P	K
早生温州	収穫直後	8	5	6
愛媛果試 28 号	11 月中旬	6	4	4
甘平	11 月上旬	6	4	5
はれひめ	11 月中旬	7	4	5

《落葉果樹》

種類	施肥時期	施肥量		
		N	P	K
かき	10 月中旬	6	3	6
ぶどう	10 月中旬～11 月上旬	9	8	8
シャインマスカット	10 月中旬～11 月上旬	6	4	4
もも	10 月下旬～11 月中旬	9	6	9
キウイフルーツ	11 月上旬	10	8	9

（県農産園芸課）

《施用適期を逃した場合》

秋肥は施用時期が遅くなると、地上部器官への移行は遅れますが、地下部器官へは吸収され、翌春の新梢・花蕾の形成に寄与します。

適期を逃した場合は、即効性の化成・液肥等で必ず施用しましょう！！

○果樹におすすめの葉面散布用カルシウム資材

○カルタス

- ・キレート化されたカルシウムが果実や生長点まで効率よく吸収される。

○スイカル・カルキング・バイカルティ

- ・有機酸カルシウム（ギ酸カルシウム）で効率よく吸収される。

○カキパック

- ・サンライム（カキ殻）の液体版でミネラル分を多く含んでいる。

○クレント

- ・植物成長調節剤で気孔の開閉を助け乾燥を促進し、浮皮の発生を抑制する。

○セルバイン

- ・葉、果実に均一に付着し、葉や果実からの水分蒸散を促進させ、浮皮の発生を軽減する。

○クレミクスネオ

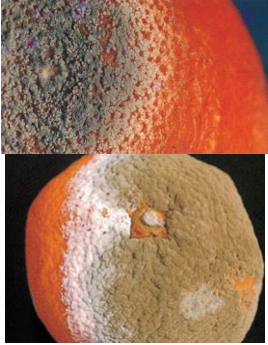
- ・炭酸カルシウムと有機皮膜補助剤が果実や葉に付着した薬液や雨水等の水分乾燥を促進する。

3. 病害虫管理について

愛媛県病害虫防除所

(写真：愛媛、宮城、千葉県 HP、愛媛県農作物病害虫雑草図鑑)

病害虫名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
トビイロウンカ	水稻	やや少～並	- 本虫による坪枯れ被害は、9月18日に東・中予で確認しており、発生時期は昨年と同程度である。 - 圃場全体を注意して見回り、黄化症状などの変化を見逃さないよう注意する。 - 定期防除後も黄化や坪枯れ症状が見られたら、早急に応急防除を実施し、坪枯れ被害の発生圃場では、可能な限り収穫を早めて被害の拡大を防ぐ。	
吸実性 カメムシ類	大豆	やや多	- 莢伸長終期から子実肥大終期にかけて吸汁被害が多くなるので、防除は子実肥大期に10～15日間隔で2回程度実施する。 - ミナミアオカメムシについては、特に10月以降、収穫終了後の普通期水稻からの移動により密度が高まることがあるため注意する。	
かいよう病	かんきつ	やや少～並	- 強風等により付着すると発病が助長されるので台風襲来前後の薬剤散布や暴風対策を行う。 - 発病果や発病枝葉は早期に除去し、園内の病原菌密度を低下させる。 - 本病に罹病性の品種は、夏秋梢や果実の発病に特に注意する。 - 甘平、愛媛果試第48号、はれひめ等の罹病性品種は注意する。	
褐色腐敗病	かんきつ	並～やや多	- 敷き藁やマルチなどで、雨水による病原菌の跳ね上がりを防ぐ。 - 発病果は二次伝染の原因となるので、発見次第園外に処分する。 - 薬剤防除は、発生してからでは十分な効果が得られないので、発生前（降雨前）に防除する。	

病害虫名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
貯蔵病害 (緑かび病、 青かび病)	かんきつ	並～やや多	- 収穫後の予措、貯蔵中の温湿度管理を適正に行い、腐敗果は発見次第除去する。 - 降雨直後など果面が濡れている場合には収穫しない。 - 収穫の1～2週間前に必ず薬剤による防除を行う。 - 散布後に100mmの降雨があれば再度散布する。	
ミカンハダニ	かんきつ	やや少	- 園内の多発樹で、1葉当たり2～3頭を目安防除する。 - 秋季は果実や葉裏への寄生が増加するので、薬液はかけむらの内容に丁寧に散布する。	
果樹カメムシ	かんきつ かき等	並	- 飛来時期や飛来量は園地により異なるため、園地観察を行い、発生を認めたら、各地域の防除暦に従い速やかに防除を行う。 - 主に山林から果樹園に飛来するため、山林に近い園地で被害が多い傾向にあるので注意する。 - 台風等の通過後、一時的に果樹園へ飛来する場合がありますので注意する。 - 収穫期が間近となる果樹では薬剤の選択に注意する。	
炭疽病	かき	やや多～多	- 園地観察に努め、発病枝及び発病果実は早期に除去し、園外で適切に処分する - 果実の感受性が高まる時期となるので、常発地では定期防除に努め、天候不順が続けば追加防除を実施する。	
ハスモンヨトウ	大豆、 冬春野菜 全般	多	- 産卵は卵塊で行われ、ふ化後間もない幼虫は集団加害し白変葉となるため、見つけ次第除去し、捕殺する。 - 幼虫が成長すると薬剤の効果が低下し、食害量も増加してくるので、若齢幼虫期に防除する。 - 施設栽培では開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入を防ぐ。	
オオタバコガ	冬春野菜 全般	多	圃場観察により幼虫の早期発見に努め、若齢幼虫期に防除する。	

病害虫名	作物	発生予想量	防除上の注意	病徴
アブラムシ類	いちご 冬春野菜 全般	並	・ 圃場観察により早期発見に努め、低密度時に防除する。 ・ いちごではミツバチや天敵類への影響を考慮し、薬剤を選定する。	
ハダニ類	いちご 冬春野菜 全般	並～やや多	・ 圃場周辺の除草を徹底する。 ・ いちごでは天敵やハチへの影響を考慮し、初期防除を徹底する ・ 早期発見に努め早めに防除する ・ ローテーション防除を実施する	
シロイチモジヨトウ	冬春野菜 全般	多	・ 寄生範囲が広く多くの野菜作物を食害する。 ・ 圃場観察により幼虫の早期発見に努め、若齢幼虫期に防除する。	 シロイチモジヨトウ

各 JA の防除指針通り

病害虫の防除を徹底して下さい！！

4. チョウ目害虫による被害にご注意を！

愛媛県病害虫防除所発 病害虫防除技術情報（第5号）、（第6号）より

(1) 対象病害虫



ハスモンヨトウ



オオタバコガ



シロイチモジヨトウ

(2) 対象作物

大豆、アブラナ科野菜、レタス、いちご等

(3) 発生状況

9月中旬に行った大豆の調査ではハスモンヨトウの被害は、1a 当たり白変個所数は 3.6 で平年の約 4 倍と多く、食害度も 36.8 で平年（11.7）に比べ高い（表 1）。特に東予地域において被害は多くなっている。

県下に設置した性フェロモントラップ誘殺数は、

- ・ハスモンヨトウは9月中旬にかけて全ての調査地点（7地点）で急増しており、5地点（四国中央市、西条市、松山市、大洲市、西予市）では平年に比べ多い。
- ・シロイチモジヨトウは9月中旬にかけて全ての調査地点（西条市、松山市、伊予市、大洲市、愛南町）で急増し、平年に比べ多い。
- ・オオタバコガは9月中旬にかけて増加しており、特に3地点（西条市、松前町、大洲市）では平年に比べ多い。

誘殺数が多くなっている地点では、今後、幼虫による食害増加が懸念されるので注意！

(4) 防除上の注意

- ・ 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一系統剤の連用を避け、ローテーション散布を心掛ける。
- ・ 老齢幼虫や蛹には薬剤の効果が不十分なため、早期発見に努め、**若齢幼虫期の防除**を心掛ける。
- ・ 薬剤の効果が低下が疑われる場合には、※表 1 を参考にして別系統の薬剤を選択する。
- ・ 散布前にはラベルをよく確認し、登録の有無、収穫前日数、使用回数等の使用基準を遵守する。

表 ハスモンヨトウに対する薬剤の感受性

供試薬剤	IRAC コード	供試倍数	補正死亡率(%)			
			四国中央市		西条市	
			3日後	7日後	3日後	7日後
ディアナSC	5	2500	96.7		92.9	
アファーム乳剤	6	1000	94.6		100	
フローバックDF	11A	1000	7.1	100	4.9	100
コテツフロアブル	13	2000	100		100	
マトリックフロアブル	18	2000	44.7	84.2	38.7	71.0
トルネードエースDF	22A	2000	78.1		84.4	
プレバソンフロアブル5	28	4000	44.4		63.3	
フェニックス顆粒水和剤	28	2000	66.7		34.5	
ベネビアOD	28	2000	82.4		100	
ヨーバルフロアブル	28	5000	100		100	
グレースシア乳剤	30	2000	100		100	

注)補正死亡率(%)=(水処理区の生存率-処理区の生存率)/水処理区の生存率×100

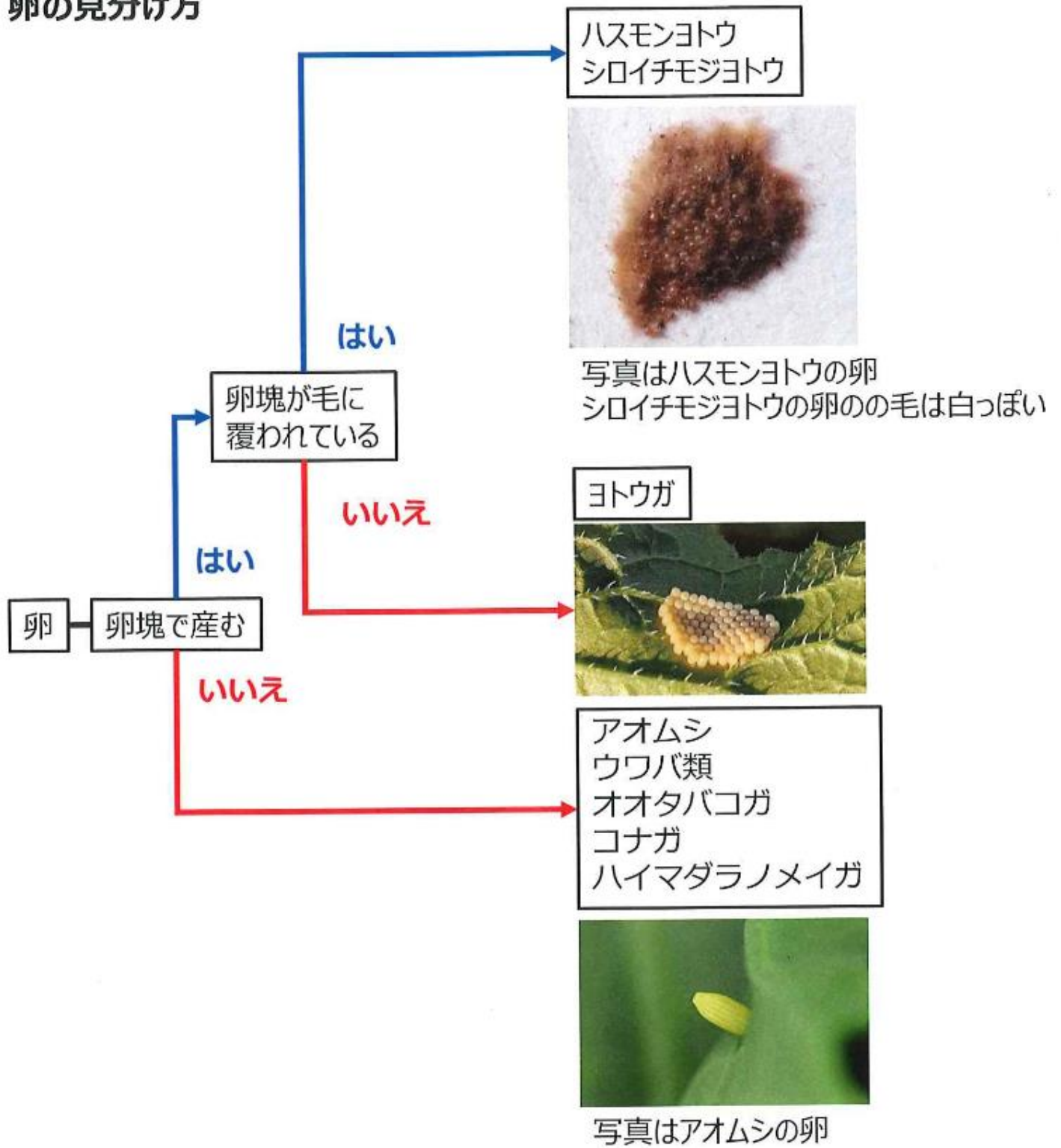
※表 1. ハスモンヨトウに対する薬剤の感受性 (令和 6 年 10 月 4 日付病害虫防除技術情報 (第 6 号) 引用)

薬剤の抵抗性発達回避する
ためにローテーション防除
を心掛けましょう！

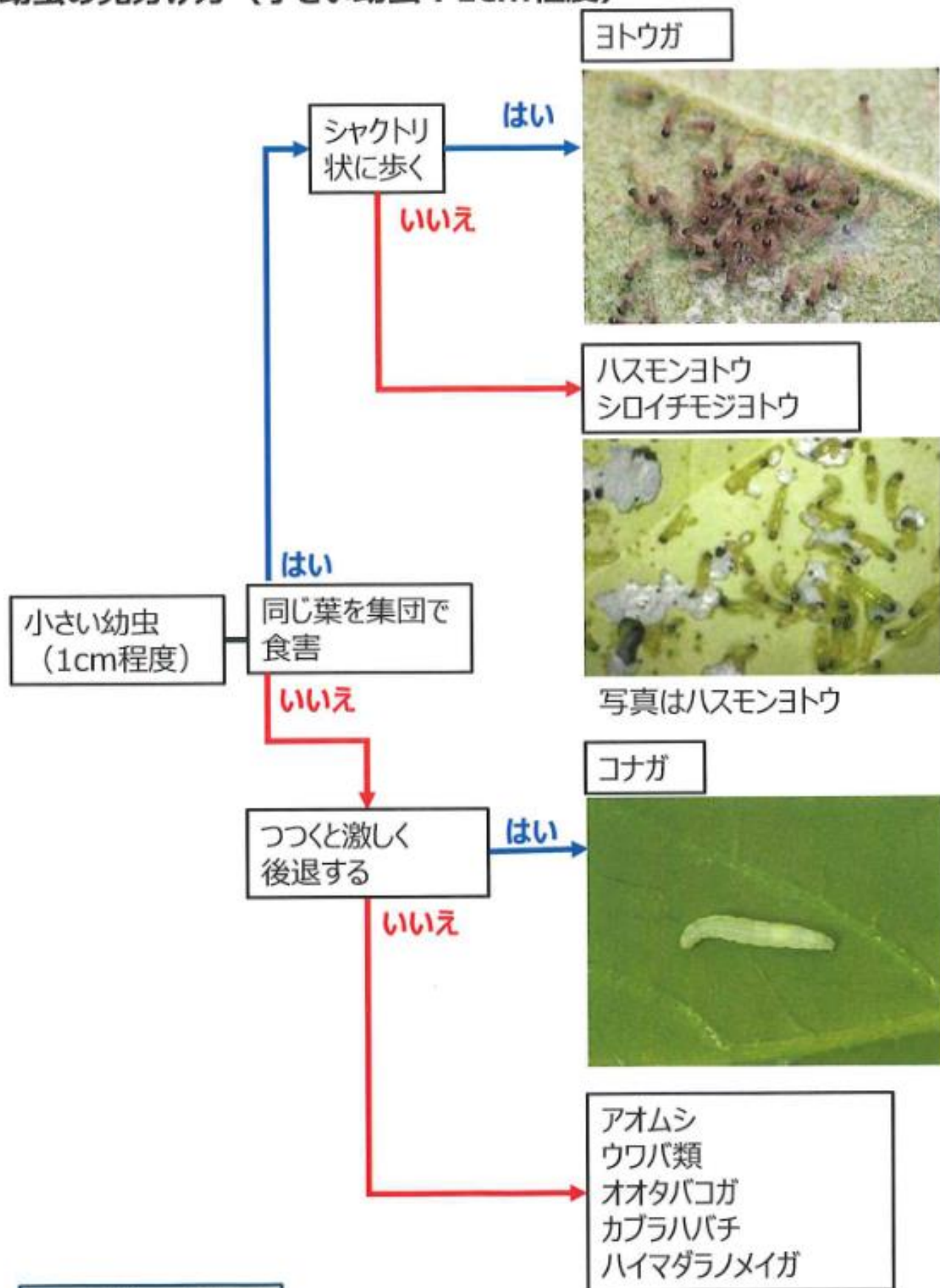


(5) アブラナ科につくチョウ目の見分け方

● 卵の見分け方



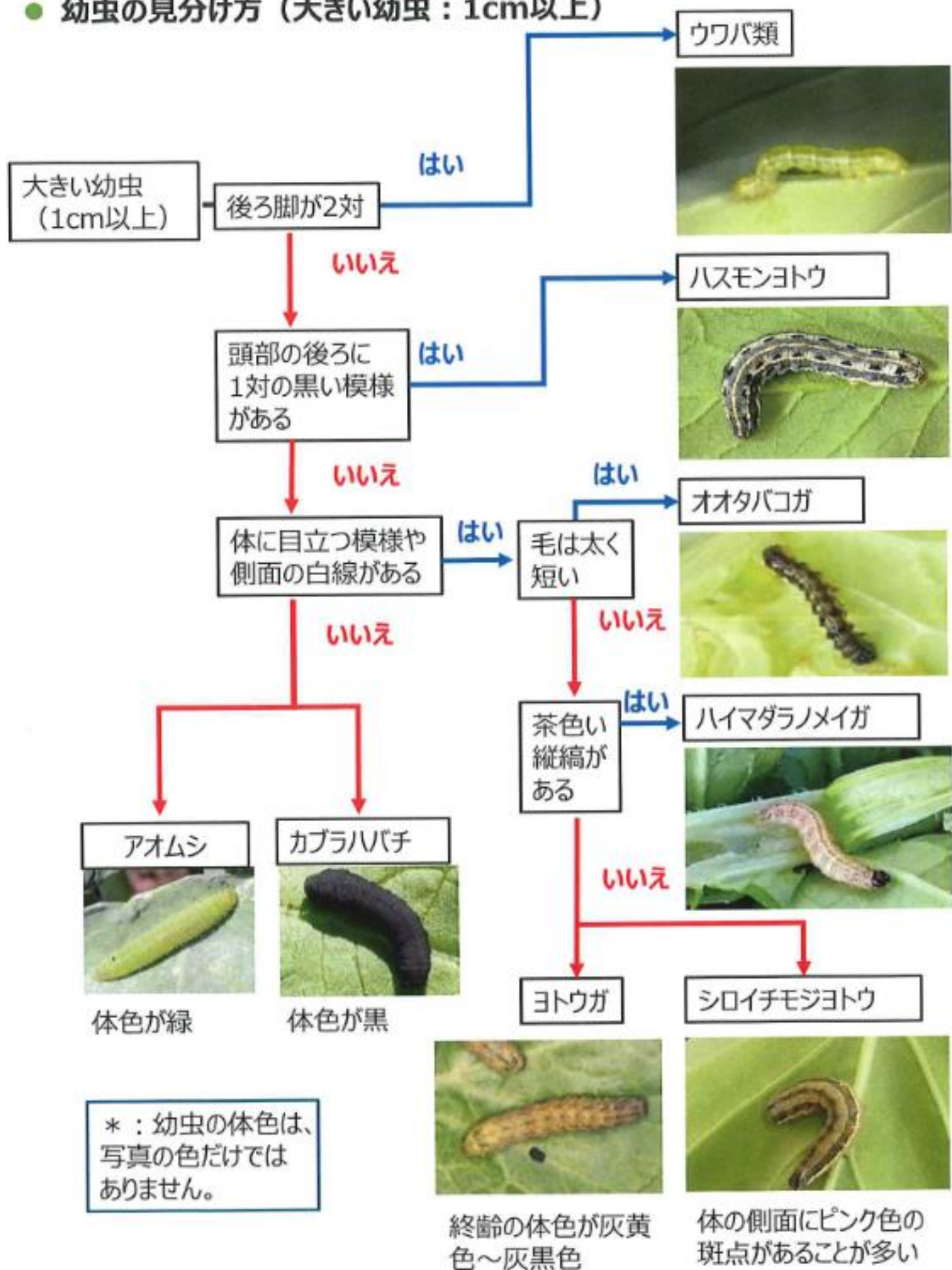
● 幼虫の見分け方（小さい幼虫：1cm程度）



*：幼虫の体色は、
写真の色だけでは
ありません。

これらは、脚の数や体毛など
で見分けられるが、ルーペや
顕微鏡等が必要になる

● 幼虫の見分け方（大きい幼虫：1cm以上）



5. 稲刈取後の除草剤散布で翌年の雑草抑制を

★プリグロックスL…ヒエなどのイネ科雑草に対してオススメ！

特徴

- 本剤がイネ科雑草植物体上の種子に付着した場合、成熟した種子がこぼれ落ちても新たな発生源にならない。（イネ科雑草種子発芽後枯殺効果）
- 気温が低い秋冬期でも効果が安定

プリグロックスLで「稲刈取後除草」をおすすめする理由とは!?

稲刈取後除草をしておけば…

プリグロックスLの100倍液が効果的！

稲刈取後除草で、雑草が種をつける前に枯らしてしまいます。

土壌に落ちる雑草の種子量を減らすことができます。

1日で除草効果が出ます！

低温でも効果が安定しているので、秋冬期の稲刈取後除草に最適です。

翌年の雑草管理がとってもラクになりますよ！



稲刈取後の雑草を放置すると…

再生した雑草が種をつけます

再生した雑草の種が、土壌に落ち、表面や地中で越冬休眠します。

雑草の種子が発芽し、生育をはじめます

翌年、休眠から覚醒した雑草の種が発芽し、雑草の密度が増加。

使用時のポイント

- 耕起する前に散布を行う（種子に薬液を付着しないと効果がありません！）。
- 種子に薬液を付着させるために、散布機やスプレーヤーの圧力を高めにして散布する。
- 稲わらが多い場合は、朝露や雨後など、稲わらが濡れているときの散布がおすすめ
- 稲刈りしてから 1 か月後～11 月中旬ごろが最適

作物名	適用雑草名	適用場所	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	ジクワットを含む農薬の総使用回数	パラコートを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草	－	秋期稲刈取後又は春期水田耕起1ヶ月前から直前まで	800～1000mL/10a	100～150L/10a	1回	雑草茎葉散布	1回	1回
直播水稻	一年生雑草	－	秋期稲刈取後又は春期水田耕起1ヶ月前から直前まで又は雑草生育期、は種前14日～は種後7日（イネ出芽前）	600～1000mL/10a	100～150L/10a	1回	雑草茎葉散布	1回	1回

★ラウンドアップマックスロード…クログワイ、アシカキなどの難防除雑草に対してオススメ！

特徴

- ・クログワイ、イボクサ、アシカキ等などの難防除雑草に対して効果
- ・地上部だけでなく、根まで枯らす（翌年の塊茎生成数の減少も期待できます。）
- ※地上部に発生のない雑草（土壌中の埋没種子など）には効果がないので、数年（3 年程度）継続使用することをおすすめします！

使用時のポイント

- ・雑草に直接かかるよう散布する。（クログワイは草丈 20 cm以上確保）
- ・耕起により塊茎を地表部に出しておけば、より効果的
- ・稲刈約 3 週間後がおすすめ

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の 使用回数	使用方法	グリホ サートを 含む
				薬量(ml)	希釈水量(l)			農薬の総 使用回数
水田作物 (水稲刈跡)	水田刈跡	一年生雑草	雑草生育期	200～500	通常散布	1回	雑草茎葉 散布	1回
					50～100 ℓ /10a			
					少量散布			
		多年生雑草		500～1000	5～50 ℓ /10a			

6. 水稲収穫後の土づくり推奨資材

品名	鉄強化美土里	アツミン	石灰窒素	根友G
規格	20kg	20kg	20kg	20kg
商品 写真				
施用量 (/10a)	3袋	2袋	1～2袋	1～2袋
特長	●従来のケイ酸資材に比べケイ酸の効率が良く、10a当り3袋の施用で毎年不足するケイ酸分が補給できます。 ●鉄の含有量を増加させていますので、鉄の補給も可能です。	●腐植酸を約50%含有しているため、堆肥1t分の腐植酸を約2袋で補える省力資材。 ●保肥力を改善し肥料成分の流亡を軽減します。 ●養分吸収の促進、リン酸固定の軽減に役立ちます。	●稲刈り後の稲わら腐熟促進、野菜残渣の腐熟促進、カルシウムでpH改善。 ●石灰は土壌中の酸性をなおし養分としてもよく吸収されます。	●光合成細菌、放線菌、繊維素分解菌などの各種有効微生物群をカルシウム系キャリアに吸着した総合微生物資材です。 ●これらの微生物群は有機物を速やかに腐熟分解させながら増殖して土壌を活性化させます。

7. 園芸作物の土づくり推奨資材

品名	サンライム	苦土石灰 (粉・粒)	パールシエル (粉・粒)
規格	20kg	20kg	20kg
商品写真			
施用量 (10a)	野菜：4袋	野菜：3袋	野菜：3袋
特徴	●酸度を矯正し、ホウ素など微量元素の補給ができます。 ●多孔質な構造の為、溶解性に優れます。 ●粒度分布が幅広く、効果が持続します。 ●カキ殻石灰は土を固めず、柔軟にします。 ●発根促進に効果があります。 ●化学肥料と同時施用ができます。 ●J A S有機認証適合資材です。	●高成分の原石をそのまま粉末にした生の肥料です。 ●土壌の pH を矯正し、NPK のみならず作物に必要な微量元素の吸収を促進します。 ●土壌とゆるやかに反応し効果が永続し、苦土の効きかたも緩効的です。 ●やりすぎによる害も起きにくく安心して使えます。	●動物性石灰であるためカルシウムの他にチッソ・りん酸・カリ・鉄・マグネシウムなど微量元素が豊富に含まれています。自然海のため、安心してつかえます。 ●酸度矯正はゆるやかに持続的に作用します。 ●多量に施用しても畑を堅くいたしません。しかも化学肥料・配合肥料と同時に施用ができます。

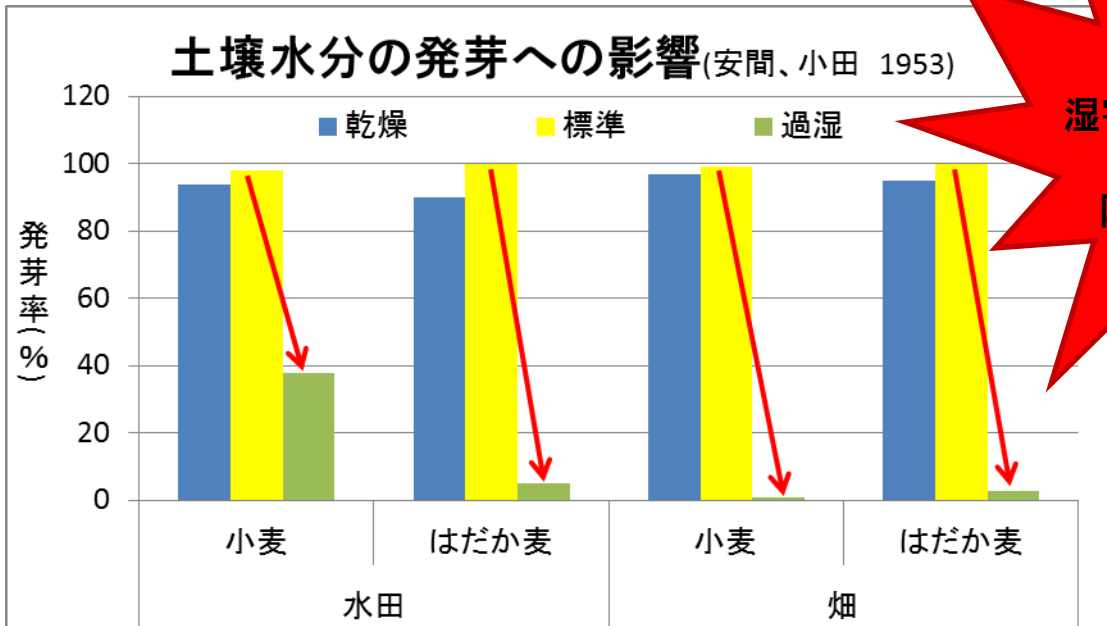
品名	パワーリン	28%重焼リン	レコルト
規格	20kg	20kg	1kg
商品写真			
施用量 (10a)	野菜・花卉・茶桑 ：2～3 袋	野菜：2 袋	200ml～1L
特徴	●腐植酸を公定規格で許容される最大限の20%とし、リン酸を最低限の15%として、低リン酸・高腐植酸としました。 ●腐植酸はリン酸の土壌への固定をガードし、リン酸の肥効を高め、腐植酸の働きによって作物の根の伸長を速め生育を促進します。 ●副成分の苦土の働きも苦土重焼燐と同等の効果が期待できます。	●ホウ素やマンガン入りの高成分りん酸肥料としてまた土づくり資材の両方の特性を有します。 ●く溶性りん酸（遅効き）と水溶性りん酸（速効き）の両方を含み、土壌に固定されにくく、利用率の高い、りん酸肥料です。	●アヅリキッドよりさらに溶解性を高めたフルボ酸（水溶性腐植）液肥です。 ●フルボ酸は植物への活性が高く根張り、ストレス軽減等に役立ちます。 ●沈殿しにくいいため他の液肥、農薬と混用しやすくなりました。 ●野菜に利用されやすい硝酸性窒素を1%、水溶性加里を8%含みます。

作物の健全な生育のために適切な養分補給を行いましょう！

8. 麦播種前の圃場準備について

■ 湿害対策（排水対策）

- ・はだか麦は湿害に最も弱い麦類で、湿害対策が不可欠です。

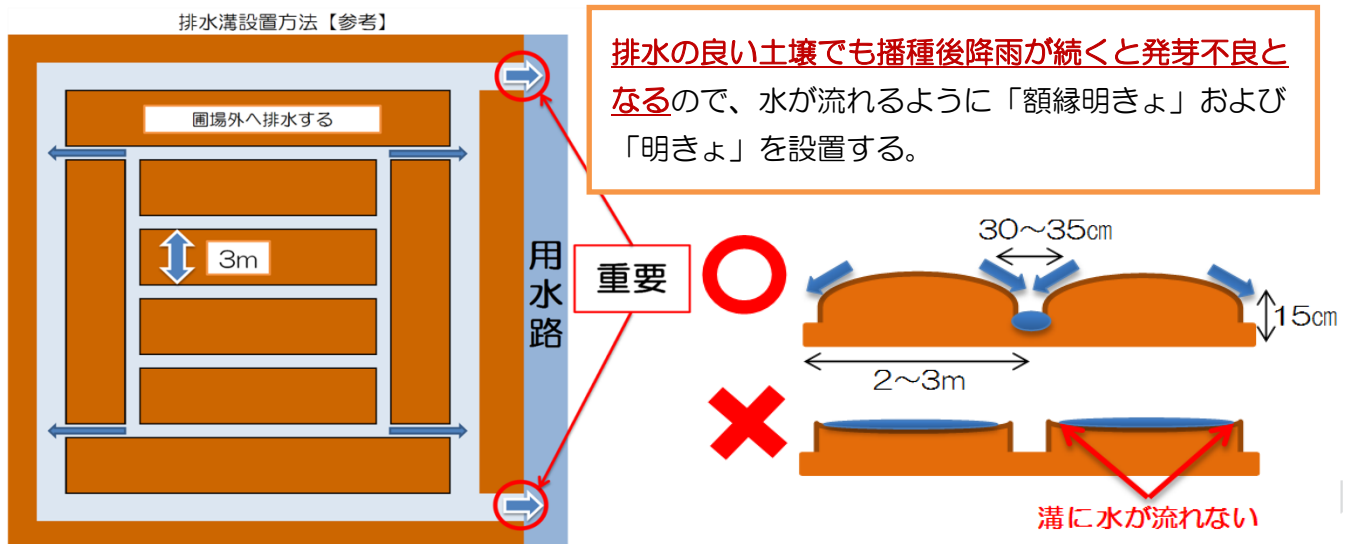


湿害によって発芽が
阻害される！！

◎ 基本的整備→暗きょ・明きょの整備

◎ 補助的整備→サブソイラー等による心土破碎による地下排水の改善

「暗きょ」、「弾丸暗きょ」は土木工事を必要とするため、基本的には2～3m毎に「明きょ」を設置して表面排水を良くすることが必要です。



■ 耕起

何回も耕起することは排水性を悪化させます。土壌が細かくなりすぎて耕起後の雨で逆に水はけが悪くなって播種できなくなったり、湿害を助長したりします。

そのため、事前の耕起は、播種直前に 1 回までとしましょう。

■土づくり

(1) 堆肥や稲わらの投入

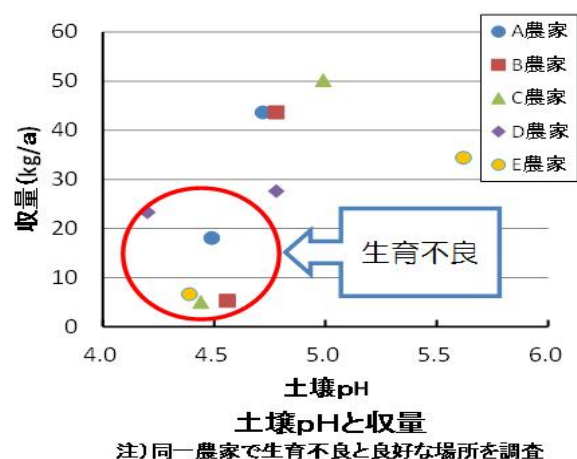
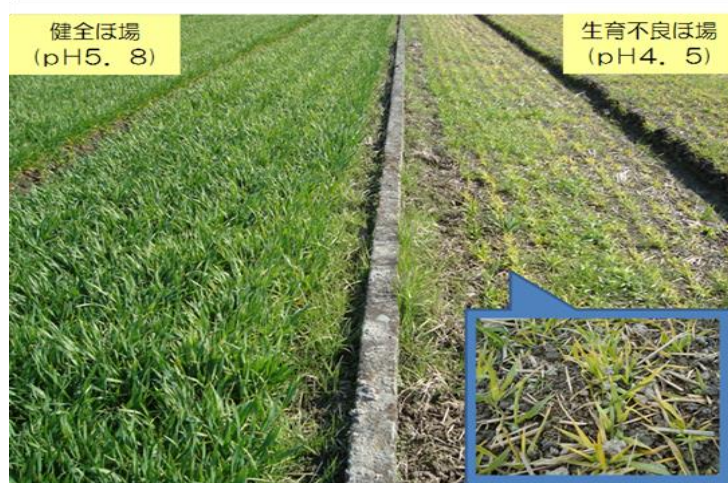
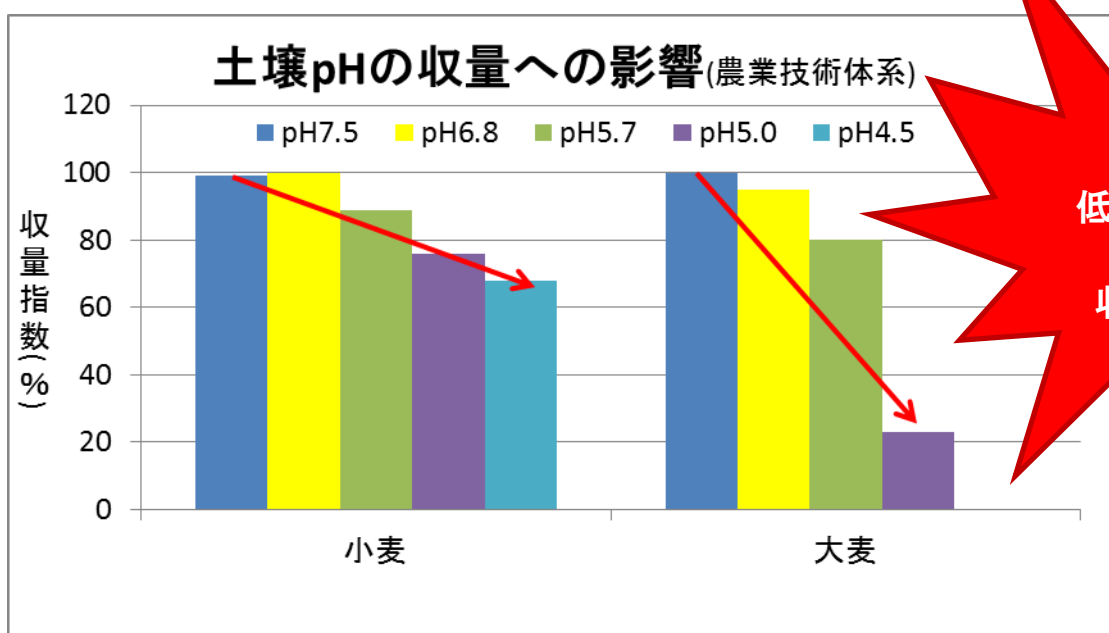
土壌の通気性や透水性を改良して根の進捗を促し、麦の健全な発育を進めます。

(2) 土壌改良資材の施用

麦は稲よりも酸性土壌に弱く酸性土壌では生育不良となります。

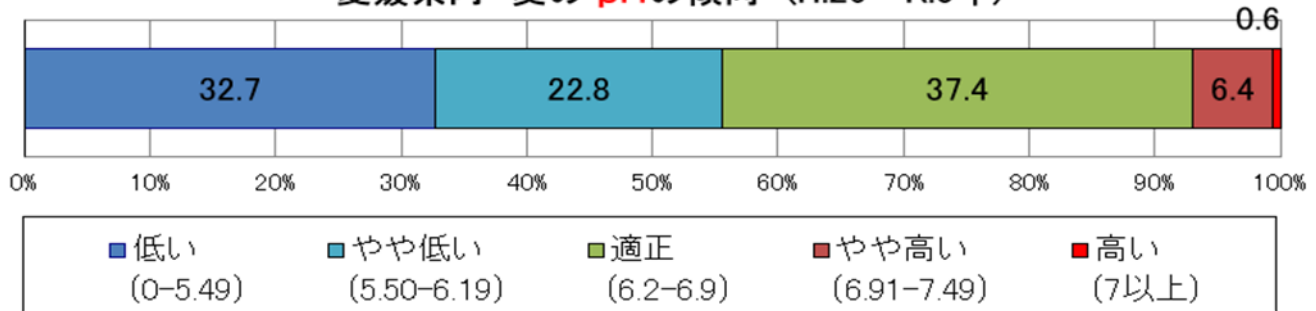
麦の適正pHは裸麦では 6.2～6.9、小麦では 5.5～7.5 で、石灰資材によるpH調整が
必用です。

湿害などがなく生育不良が続いている圃場は、耕起前に土壌pHの測定を行い、苦土石灰な
どの土壌改良資材で適正なpHにすることが必要です。



■雑草防除対策

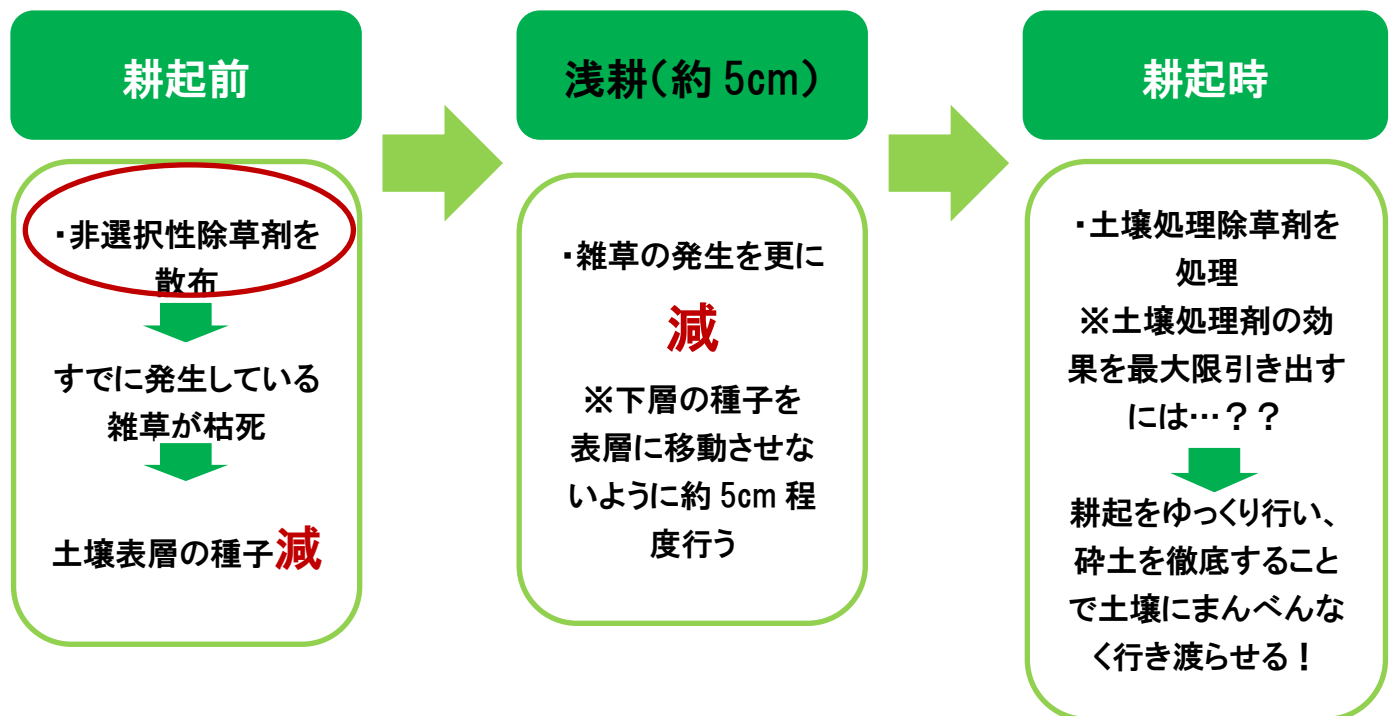
愛媛県内 麦の pHの傾向 (H.26～R.5年)



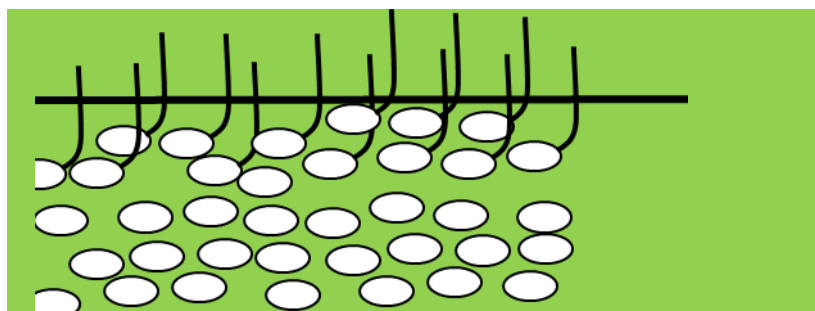
愛媛県内の麦土壌の近年のpH値は、はだか麦の適正値の6.2～6.9に達してない土壌が55.5%もあります！

品名	苦土石灰	アヅミン苦土石灰
規格	20kg	20kg
商品写真		
施用量 (10a)	5袋	5袋
特徴	●高成分の原石をそのまま粉末にした生の肥料です。 ●土壌のpHを矯正し、NPKのみならず作物に必要な微量要素の吸収を促進します。 ●土壌とゆるやかに反応し効果が永続きし、苦土の効きかたも緩効的です。 ●やりすぎによる害も起きにくく安心して使えます。	●アヅミンの働きにより、表層施用でも石灰や苦土の分散・浸透を促します。 ●アヅミンの働きにより根の活性を高め、発根（特に養分、水分の吸収に必要な細根）を促進します。 ●アヅミンの働きによって有効化した石灰・苦土はよく吸収されますので果樹や野菜の品質が向上します。

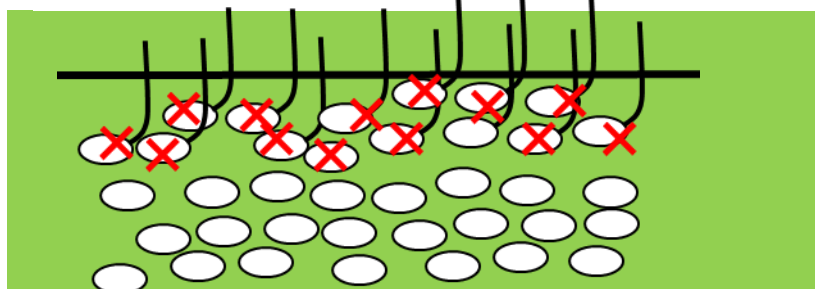
～耕起前処理を実施することで、雑草の発生を減らしましょう～



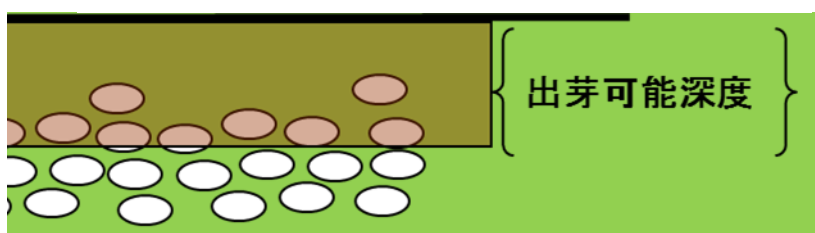
・イメージ図



① 麦播種までに土壌表層の種子の多くが出芽



② 非選択性除草剤で出芽固体を防除



③ 下層にある雑草種子を表層に移動させない